

新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装タイプ）を活用した事業の令和7年度実績及び効果検証

1 救急情報システム構築事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 :67,176,000円 交付決定額:33,588,000円	担当課	消防局 救急企画課
概要	救急需要の増大に伴い、本市では救急活動時間が延伸し、「救急搬送困難事案」も全国の他消防本部と比較して多いことから、救急活動時間の短縮による傷病者の負担軽減が課題となっている。そのため、救急活動を支援する新たな救急情報システムを導入し、傷病者情報をデジタル化して医療機関と共有することで、救急活動の効率化を図り、救急活動時間の短縮や、傷病者に適した医療機関への早期搬送と早期治療開始を目指す。				
R7の 主な取組	仙台市救急情報システムの構築にあたり、同様のシステムを既に導入している他都市への現場視察を実施するなど、各種情報収集を行ったうえで、導入に向けた検討を進めた。また、医療機関に対しては、合同でのWEB説明会の開催や、必要に応じた個別訪問を行い、システム運用について説明するとともに、運用への参加を呼びかけた。令和8年1月末にシステムの構築が完了したことから、その後は試行運用を実施し、令和8年4月の本格運用開始に向けた調整を行った。				

KPI		2025年度末	2026年度末	2027年度末	単位	R7目標 達成
① システムを使用して医療機関に搬送した 傷病者数	目標値	49,783	53,893	54,266	人	×
	実績値	4,414				
② 医療機関と共有する情報の精度及び質の向上	目標値	3.0	3.5	4.0	ポイント	未計測
	実績値	未計測				
③ 医療機関応需率の向上	目標値	54.6	55.1	55.6	%	○
	実績値	60.4				
④ 平均現場滞在時間	目標値	22.6	21.3	20.6	分	×
	実績値	24.5				

■ 効果検証

事業評価	KPIについては試行運用期間における実績に限られており、システム導入効果を十分に把握するためのデータが不足している状況である。一方で、令和7年度の主な事業であるシステムの構築については当方の想定する機能を十分に備えた内容を構築でき、また、当該システムの効果的な運用に不可欠である医療機関の参画についても、仙台市内の主要救急受入病院を網羅した27医療機関から協力が得られた。本格運用をより効果的なものとする態勢の構築が図られ、システム構築年度としては一定の評価ができる内容となっている。
今後の 方向性	令和8年度において実運用後の救急隊員や医療機関への意見聴取の実施を予定しており、現場での実際の使用状況を踏まえながら、機能面および運用面における課題を整理・抽出していく。その結果を今後の改善や見直しの重要な材料として活用する。また、現場での使用実績が一定程度蓄積された段階で収集したデータを丁寧に分析することにより、より正確で客観的な情報に基づいた評価が可能となる。こうしたデータの活用を重視しながら、実効性の高い運用方針の検討と継続的な改善に取り組んでいく。

2 市バスデータ利活用推進事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 :18,513,000円 交付決定額:9,256,000円	担当課	交通局 事業計画課
概要	市バスデータをオープンデータ化するプラットフォームとして、本市が2023年度に整備した「SENDAIデータダッシュボード」と連携し、本市の人口や特色、中心市街地の人流など多様な情報とあわせて、市バス利用状況の閲覧を可能とする。あわせて、オープンデータ化により、事業運営の透明性と信頼性を図るほか、市バス利用者のニーズを汲み上げ、利便性向上に資するサービス提供を実施する。				
R7の 主な取組	本局の保有する市バス利用データをオープンデータ化することで、行政の信頼性や透明性を向上させた。あわせて、各停留所間の人の移動や市バス全ての便の混雑状況を可視化した「市民向けダッシュボード」を構築し利便性の向上を図ったほか、ダッシュボード上に本局キャラクターを活用するなど親しみやすいUIを意識し、市バスへの関心を高め、利用者増に資する事業を実施した。				

KPI未計測-		2025年度末	2026年度末	2027年度末	単位	R7目 標達成
① 市バスデータの閲覧数	目標値	250	300	350	件/月	○
	実績値	656				
② バス利用状況に関するサンプル率	目標値	8.3	50	100	%	○
	実績値	100				
③ 市バスデータの利用者満足度	目標値	50	60	70	%	○
	実績値	80				
④ バス平均乗車密度	目標値	11.5	11.7	11.9	人	-
	実績値	未計測				

■ 効果検証

事業評価	KPI①③については、HP掲載や市政情報誌等を活用し市民へ広く周知したことが達成に繋がった。KPI②についてはダッシュボード構築と並行してビッグデータを効率的に分析するシステムを構築し、これまで一部の期間しか分析できなかったデータが、全ての期間取得可能となった。KPI④が現時点で未計測なのは、本局の決算時(8月)に当該KPIが得られるためである。利用者数は上昇傾向にあるため、目標達成するものと思料。
今後の 方向性	市民向けダッシュボードについて、操作性に改善の余地(一部データが重く、反応・更新が悪いダッシュボードがある)ため、システム開発事業者と改善可能かどうかについて協議を進めている。学識経験者や交通局を含めた関係者からなるワーキンググループにダッシュボードから得られるデータを提供するほか、さらなるデータ整備等の必要性について検証していく。

3 データ利活用基盤導入事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 :15,638,000円 交付決定額 : 7,819,000円	担当課	まちづくり政策局 まちのデジタル推進課
概要	データ利活用基盤の導入により、本市が保有している様々なデータを一元的に管理し、データの可視化やオープンデータの公開を推進することで、住民にとって有益な情報を提供し、市の地域課題解決のための公民連携の拡大を図る。また、庁内のEBPMの推進により効率的で効果的な政策立案を行い、住民サービスの向上を図る。				
R7の 主な取組	本市保有データの一元管理基盤を整備するとともに、庁内外のデータ活用を推進した。あわせてBIツールを導入し、人口・産業・税務・施設等のデータを可視化するダッシュボードを構築し公開をおこなった。民間へ情報提供や職員のデータ利活用スキル向上を通じ、新たな価値創出と地域課題解決に資するデジタル基盤の確立に取り組んだ。				

KPI		2025年度末	2026年度末	2027年度末	単位	R7目標 達成
① ダッシュボード公開件数	目標値	3	9	18	件	○
	実績値	5				
② データセット公開件数	目標値	3	9	18	件	○
	実績値	5				
③ ダッシュボード閲覧数	目標値	150	400	1,000	件	○
	実績値	525				
④ データセットダウンロード数	目標値	20	100	200	件	×
	実績値	未計測				

■ 効果検証

事業評価	KPIの達成状況に加え、ダッシュボードの利用状況や庁内からのフィードバックを踏まえた評価を実施した。特に、データの可視化による業務効率化や情報共有の促進といった観点から効果検証を行い、改善点の抽出に努めた。また、事業者との定例打合せを通じて課題認識を共有し、今後継続的な改善方針を検討する予定である。
今後の 方向性	今後は、評価の精度向上を図るために、閲覧数やダウンロード数といった定量データの取得に加え、利用者からの定性的なフィードバックを収集する仕組みを構築する。

4 生活習慣病予防PHRサービス実装事業【1年目】

■ 事業概要及び実績

計画期間	令和7～9年度	R7交付対象 事業費	総事業費 :30,814,000円 交付決定額:15,407,000円	担当課	健康福祉局 健康政策課
概要	仙台市のメタボリックシンドローム該当者の割合は近年増加傾向にあり、高血糖や高血圧等を起因とする生活習慣病リスクが高まっている。こうした状況を改善するため、「PHRサービス」を活用し、市民が無理なく楽しく身体活動量の増加や食生活の改善ができる機会を提供するほか、生活習慣病の重症化予防を効果的に継続できる体制を整備することで、更なる健康づくりを目指す。さらに、PHRサービスを多くの市民が暮らしの様々な場面で利用する市のポータルアプリと接続することで、普及拡大を図る。				
R7の 主な取組	自身の健康状態を可視化できる3種類のアプリを導入し、これらのサービスを体験できるイベントを提供することで、生活習慣を見直す機会の提供を行った。				

KPI		2025年度末	2026年度末	2027年度末	単位	R7目標達成
① 歩数表示機能(PHRサービス)を利用している市民の人数	目標値	3,000	4,000	5,000	人	×
	実績値	1,034				
② 自動栄養分析(PHRサービス)利用のアクティブ率	目標値	70	75	80	%	×
	実績値	28				
③ PHRサービスを活用する医療機関数	目標値	5	10	20	件	○
	実績値	5				
④ 目標歩数達成者率	目標値	30	50	70	%	×
	実績値	23.5				
⑤ 栄養摂取状態の改善率 (脂質の割合が適正範囲にある人の人数)	目標値	420	560	700	%	×
	実績値	41				
⑥ 医療機関でPHRサービスを活用した患者数	目標値	10	20	40	人	×
	実績値	0				

■ 効果検証

事業評価	事業者とのサービス機能部分の調整の難航により、当初予定していたプロモーションの開始時期が遅れたことから、KPI①②④⑤⑥については達成できなかった。KPI③については、市医師会に協力いただき達成することができた。利用者を増やすためには、実際に体験できる機会を増やすことが効果的ではないかとの意見が出た。
今後の 方向性	2026年の目標達成に向けプロモーションを大幅に強化するため、年間を通じ様々なイベントで周知・啓発を行い、毎日の楽しさや便利さを実感できるよう実際に使用してもらう機会を提供し、日々の継続利用へつなげる。